

[家庭教育支援]

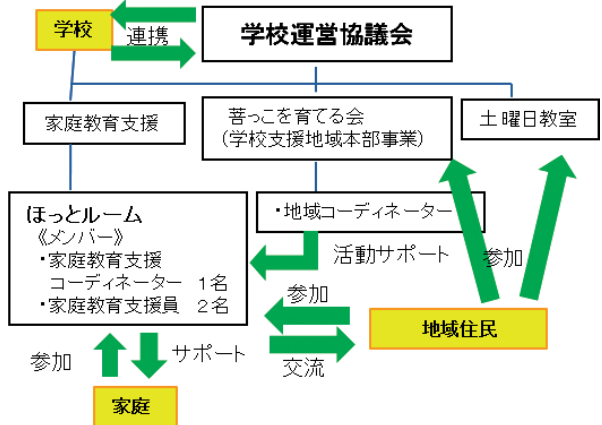
親と子供に寄り添い、見守り続ける「ほっとルーム」の活動

滋賀県湖南市／湖南市立菩提寺小学校

■ 活動の目的・概要

- 学校運営協議会の取組の一つとして、菩っこを育てる会（学校支援地域本部事業）と連携して、家庭教育支援の取組を実施しています。
- 民生委員等経験者や学校評議員経験者で構成された家庭教育支援チーム「ほっとルーム」のメンバーが、「菩っこはうす」という学校に隣接した施設を拠点として、保護者が悩みを共有できる場である『ほっとサロン』を運営しています。
- 地域コーディネーターが職員室に常駐しているため、教員や家庭教育支援コーディネーターがいつでも相談できる体制となっています。

体制図



■ 活動の特徴・工夫

- 家庭教育支援チーム「ほっとルーム」では、様々な取組を実施しています。
 - ・不登校傾向の児童の個別対応、保護者支援
 - ・『ほっとサロン』（保護者が悩みを共有できる場）の開設（毎週水曜日の午後）
 - ・保護者対応の勉強会、講演会の実施
- 『ほっとサロン』は参加者の有無にかかわらず、毎週開催しているため、参加したい人が参加したい時に気軽に訪れることができます。
- 家庭教育支援コーディネーターと地域コーディネーターが連携して活動することで、無理なくサロンを運営しています。
 - ・家庭教育支援コーディネーターの役割
 - 活動計画の企画立案と実施
 - ・地域コーディネーターの役割
 - 家庭教育支援コーディネーターがプランニングした企画を学校内に周知、活動のサポート
- 平成12年より不登校傾向等悩みがある児童を対象に行っていた「寄り添い支援」のボランティアが、家庭教育コーディネーターや家庭教育支援員としてサロンの運営を進め、必要な場合には寄り添う児童の様子を担当に伝えることで、学校と家庭をつなぐ役割にもなっています。



ほっとルームで行った茶話会形式の講演の様子



県のスクールソーシャルワーカーを招いた講演会の様子

■ 立ち上げ当時

- 学校内で児童が授業中に教室を出るなどの出来事がきっかけとなり、平成12年、学校との関係の深い当時の民生委員、学校評議員等の発案によって学校内の「寄り添い支援」の活動がスタートされました。校内の一室を利用し、昼休み等子供が自由に入室し話を聞いてもらえる場を設けることにより、子供たちのカウンセリングを中心とした寄り添い活動の取組を始めました。
- その後、学校支援員等の配置が充実されてきたこと、保護者支援の重要性が認識されるようになったことなどから、学校と寄り添い支援担当者で協議し、平成25年度からは、支援対象を保護者として支援活動を展開することとして、家庭教育支援の取組を始めることとなりました。これまでの経過を踏まえ、家庭教育支援コーディネーターは、これまでの学校内の寄り添い活動を進めてこられた元民生委員の方に依頼し、家庭教育支援員は、同じく寄り添い活動にあたってこられた元学校評議員、元主任児童委員等の方の協力を仰ぐこととして、『ほっとサロン』の体制を作りました。
- 活動内容については、学校、学校支援地域本部、ほっとルームのメンバーで会議を持ち、学校や家庭との連携方法などについて、話し合いをして決定しました。

■ 展開・現在

- 家庭教育支援チームが、保護者の悩みを共有、学校での児童の様子を保護者に伝え、学校側に橋渡しする取組を行うことで、地域による学校支援及び家庭教育支援の充実につながりました。
- 子供の寄り添い活動や学校支援員を経験した方が家庭教育支援コーディネーター・支援員となったことや、学校支援地域本部事業の地域コーディネーターが常駐していることにより、学校支援と家庭教育支援の連携が円滑に行われています。
- ボランティアや保護者が集まる空間ができたことで、時には子供たちが下校途中に「昔っこはうす」に立ち寄り、コーディネーターや支援員などと交流するようになりました。
- 保護者からは、「聞いてもらうことで気持ちにゆとりができ、リフレッシュできる」という旨の意見が聞かれるようになりました。



活動拠点 「昔っこはうす」

■ 今後の展望・課題

- 温もりのある学校を目指し、今後も家庭教育支援と学校支援地域本部事業が連携・協働しながら、ほっとルームの活動を継続し、その活動を通して、学校、家庭、地域をつなげ、家庭教育の更なる充実を目指していきます。また、支援者として活動できる方（子育てを終えた世代の方等）の発掘を進める必要があります。
- 多くの方に参加していただけるよう、保護者への活動PRの方法を検討しています。具体的には、気軽に、自然と集まる中で子育ての悩みなどを話せるように、PTA行事との同日開催やものづくりの会などの企画をしていく予定です。



滋賀市小学校 日曜日 申込日 日 日

「座布団作り」申し込み

2月

月	火	水	木	金
1	2	3	4	5
6	7	8	9	10
11	12	13	14	15
16	17	18	19	20
21	22	23	24	25
26	27	28	29	30
31				

参加する日の欄に活動される希望時間を円書きください。
 ~活動時間~ 月曜日 8:30~14:30
 火曜日~金曜日 8:30~15:30
 上記の時間内で活動していただけます。

お名前 _____
 児童名 _____
 連絡先 _____
※お子さまの学年欄にお書きください。

活動参加募集チラシ（座布団作り）

[学びによるまちづくり]

学区ブランド産品「富より団子」がつなぐ学校と地域

奈良県奈良市／^{とみお}富雄中学校区学校支援地域本部

■ 活動の目的・概要

- 地元の資源に着目し、農産物やその加工品に対し、ネーミングやパッケージの企画開発をし、又「展示」「販売」を目的としたPR方法を考える「学区ブランド産品開発プログラム」に、中学校区に設置された地域教育協議会や運営委員会で活動する地域コーディネーターが集まり、子供たちとともに取り組みました。
- 地域コーディネーターと学校が協力して「生きたキャリア教育」に取り組むことにより、学校地域連携のさらなる発展を目指しました。



■ 活動の特徴・工夫

- 平成20年度より全市(公立 幼・小・中)で文部科学省の「学校支援地域本部事業」を始めましたが、事業をすすめる中で、各校区におけるコーディネーター人材の有無や必要とされるコーディネート機能等の違いが事業効果に温度差を生じさせてくるようになりました。さらなる事業推進には中核となるコーディネーターの育成が欠かせないことから、文部科学省の実証的共同研究などに参加しながら、市内各地域で地域連携活動をすすめました。
 - 初年度は富雄中学校区内の一つの小学校である鳥見小学校の5年生が「総合」の時間を使って取り組みました。「古代米」に着目し、白米に混ぜる『う米米(うまいまい)』を考案し、「奈良のお土産として」をテーマにCM作成、チラシ作り、パッケージデザインに取り組みました。
 - 次年度は小学校での取組を富雄中学校が引き継ぎ、古代米を使ったお菓子作りに有志で集まった40名の生徒と地域コーディネーターが10種類以上のお菓子の試作に取り組み、商品を「古代米をまぶしたゴマ団子」に決定しました。
- その後「ただの手作りにとどまらず、近隣のお店で 売ってもらえるような商品」を目指して取り組みました。
- 商品開発、ネーミング、チラシ、パッケージの各チームに、2,3名のコーディネーターが担当として付き添い、地域の団体や近隣の製造、小売り関係にお勤めの方など、たくさんの方々に相談することによって、商品化・販売に結び付くように応援いただきました。また、学校の教員からは取組へのアドバイスが加わり、地域と協力企業、学校が一体となった活動になりました。
 - ゴマ団子は「和菓子バージョン」と「中華菓子バージョン」を作ることとなり、和菓子バージョンは、老舗和菓子店の協力による制作が決定し、さらに中華菓子バージョンは、株式会社の協力で冷凍食品としての制作が決定しました。



研究成果物
「コーディネーター教本」
<http://manabi-mirai.mext.go.jp/report/2010.html>



中華菓子バージョン

■ 立ち上げ当時

- 平成22年度、コーディネーターのスキルアップも目指していることから、活動に直接かかわるのは管理職とコーディネーターとし、他の教職員には関心をもって温かく見守っていただけるよう、職員会議で説明しました。
- 生徒の意見やアイデアを尊重しつつも「販売」につなげるための厳しさも学習しました。
また、多くの方々へ助けていただきながら、地元企業を中心に協力企業をコーディネーターが手分けして探しました。企業の方々も中学生の言葉に真剣に耳を傾けていただき、地域の子供たちの成長のためという想いを共有できたことから、地域の教育力を実感できました。



企業へのプレゼンテーション

■ 展開・現在

- 単年度のプログラムであったため、生徒のプロジェクトチームは平成23年度末で解散し、その後の取組を新しく設立した部活動「ボランティア部」が継承しました。
- ボランティア部だけでなく、全校生徒の財産として引き継いでいくため、キャリア教育の材料としても活用しています。また、生徒の発案により実施したアンケート調査から「給食への採用」の意見が多数あり、市長、教育長へのプレゼンテーションを経て学校給食のメニューとして採用が決定しました。



奈良市長・教育長へ『富より団子』給食採用のプレゼンテーション

これらの取組は、子供たちの学びを支援することはもちろん、企業・団体や住民にとっても地域参画のきっかけ、学びの機会となっており、子供たちと共に育つ地域づくり（地域振興）が進んでいる。

■ 今後の展望・課題

- 中華菓子バージョンを製造時に使用した油を利用し、ボランティア部と「放課後子ども教室」が共同で『エコ石けん』を作りました。
また、ユニセフへの寄付を目的にチャリティー販売を行ったり、中学校敷地内で栽培した「古代米」のワラを使って『しめ縄』を作るなど、『富より団子』の製作プロセスから派生した新たな取組が進んでいます。
- 地域と学校が連携した『富より団子』の取組が様々な取組へと発展しています。これらの教育プログラムの開発を通し、地域におけるコーディネーターの発掘・育成が進んでいます。この『富より団子』の取組も、地域の財産として継承するためにさらに発展した活用を考えています。



小中合同しめ縄づくり

[学びによる地域貢献]

地域と学校が互いに支え合い高め合う、ボランティア活動

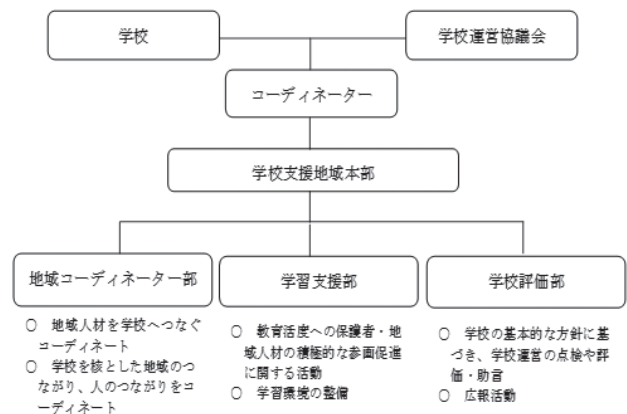
みやこのじょう
宮崎県都城市／山田中学校支援地域本部

■ 活動の目的・概要

○平成25年度に、山田中学校は学校経営ビジョンの柱の中に「キャリア学習」と「地域貢献」を掲げました。

そこで、生徒の体験学習を充実させるために、協力していただける施設や人材を紹介したり、生徒が安心して体験学習に取り組めるよう見守りをするとともに、多様な人と関わることで、生徒の視野を広げることがねらいとして学校支援地域本部が組織されました。発足当初より学校の諸活動へボランティアが参加しています。

体制図



■ 活動の特徴・工夫

○総合的な学習の時間を活用し疑似体験活動（車いす体験）等のキャリア教育へのサポートをしています。生徒が安全に体験活動できるように、生徒の活動の見守りや補助をしています。

○生徒が学校行事、お祭りなど地域行事へ積極的に参加できるように、中学校の生徒会担当の教員に行事一覧表、ボランティア活動やボランティア講習会等への参加募集のチラシを提供し、参加者を募っています。

○ゲストティーチャーにおける授業では、教師からその授業（活動）に対するねらいや目的、内容、時間配分等の要望を聞き、ゲストティーチャーとしてふさわしい地域人材を紹介しています。

○土曜学習会における補充学習支援等をしています。講師は福祉協会を通して、退職した先生にお願いするとともに、宿題や生徒のわからないところを教えています。また、ボランティアの会の会員が1名つき、参加生徒の把握や健康管理を行っています。中には学習面以外の相談をしてくる生徒もいます。

○社会福祉協会との連携を強めることで高齢者福祉施設訪問など多くの支援ができるよう工夫しています。（福祉施設訪問、職場体験学習等）このような取組に協力していただける施設を探し、生徒受入の交渉をしています。



車いす疑似体験へのサポート



ボランティアを題材とした劇による意識付け

■ 立ち上げ当時

- 山田中学校の生徒は、素直な生徒が多いが、集団の中で主体的に判断し、積極的に物事に取り組む生徒が多いとは言えない状況でした。そこで、学校では、生徒個々人の自尊感情を高め、自己の存在感や集団への所属感を実感させるとともに、コミュニケーション能力を育成することが課題解決につながると考え、学校からの要望で学校支援ボランティアが組織されました。
- コーディネーターは地区のボランティア団体の代表の方をお願いし、学校と地域団体との連携を図りました。



地域ボランティア団体との連携

■ 展開・現在

- 学校支援ボランティアの会の発足により、保護者や地域住民の、学校との連携や学校への支援に対する認識が深まり、「福祉体験活動・福祉施設訪問・職場体験学習・ボランティア活動」など、学校への支援活動がより活性化してきています。
- 生徒のボランティアや地域貢献への意識が高まり、地域行事参加やボランティア参加の募集があると、多くの生徒が希望するようになりました。
また、生徒総会での全校討議を「思いやりの心を育てよう～ボランティア活動を通して～」とし、生徒みんなが参加出来るボランティアについて話し合い、朝の清掃ボランティアやあいさつ運動に取り組んでいます。



宮崎県人権啓発大会の会場でのボランティア

■ 今後の展望・課題

- 学校支援ボランティアの会を継続し、充実した活動を実践していくには、メンバーの確保が課題です。
- 学校の諸活動に、ボランティアの会の方に参加してもらうことで、学校教育活動が充実するとともに、生徒のコミュニケーション能力等が高まることを期待できます。
- 学校と地域が連携・協働し、教育活動に関わることで、地域の方々の生き甲斐になり、地域が活性化することが期待できます。



体育大会ではボランティアの会や地域の方々が踊りに参加